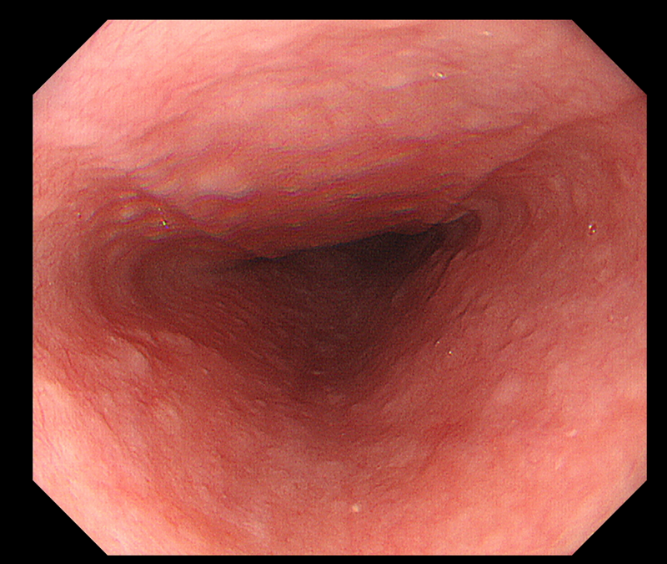
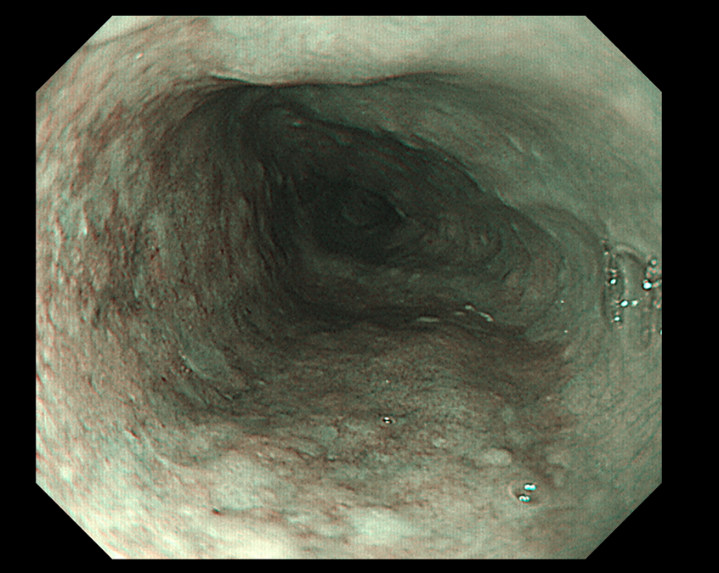
【1】60歳男性。2020年10月に検診エコーで胆嚢の胆泥を指摘された。2020年12月に心窩部痛が出現し、ERCPによる採石を施行した際、食道の切歯25-30cmに異常を指摘され、精査・加療目的で入院となった。

血液所見：白血球5920、赤血球 453万、Hb15.0 g/dL、Ht 45.3％、血小板 22.9 万

血清生化学所見：総蛋白 8.0g/dL、アルブミン 4.2g/dL、総ビリルビン 0.9mg/dL、直接ビリルビン0.1mg/dL、AST 34 単位、ALT 34 単位、LD 336 単位（基準 176～353）、ALP 89 単位（基準 260 以 下）、γ-GTP 142 単位（基準 8～50）。Child-Pugh 分類は A

既往歴：2017年に大動脈弁置換術を施行した。

患者の食道内視鏡像を以下に示す。

(1)この患者の食道病変として正しいものはどれか。

a. 胃食道逆流症

b. Mallory-Weiss症候群

c. 食道・胃静脈瘤

d. 早期食道癌

e. Barrett食道

(2)この後、画像の病変に対して適切な治療が行われた。この患者に行われた治療と、治療後に起こりうる合併症の組み合わせについて正しいものを選べ。

a．外科的食道切除　　　　　－　反回神経麻痺

b．化学療法　　　　　　　　－　腎障害

c．内視鏡的粘膜下層剥離術　－　食道狭窄

d．内視鏡的静脈瘤結紮術　　－　食道穿孔

e．PPI内服　　　　　　　　－　高ガストリン血症

【1】

76歳男性。夜間に突然の心窩部痛を訴え、救急搬送された。

意識は清明。体温 36.4℃。脈拍 54/分、整。血圧 153/97mmHg。Sp0₂ 97％(room air)。眼瞼結膜に貧血はなく、眼球結膜に黄染を認めない。腹部圧痛あり。右季肋部痛あり。痛みの程度は10/10。平坦、膨満。

血液所見：白血球 7830、Hb15.8 g/dL、Ht 46.1％、赤血球 478万、血小板 18.9 万、プロトロンビン時間 89％ （基準 80～120）。血清生化学所見：総蛋白 7.8g/dL、アルブミン 4.5g/dL、総コレステロール 166mg/dL、総ビリルビン 2.2mg/dL、直接ビリルビン 1.3 mg/dL 、AST 301 U/L、ALT 211 U/L、LD 419 U/L（基準 176～353）、ALP 350U/L（基準 260 以 下）、γ-GTP 268 U/L（基準 8～50）。

（１）腹痛の原因として最も考えられるものはどれか。2つ選べ。

a . 急性膵炎

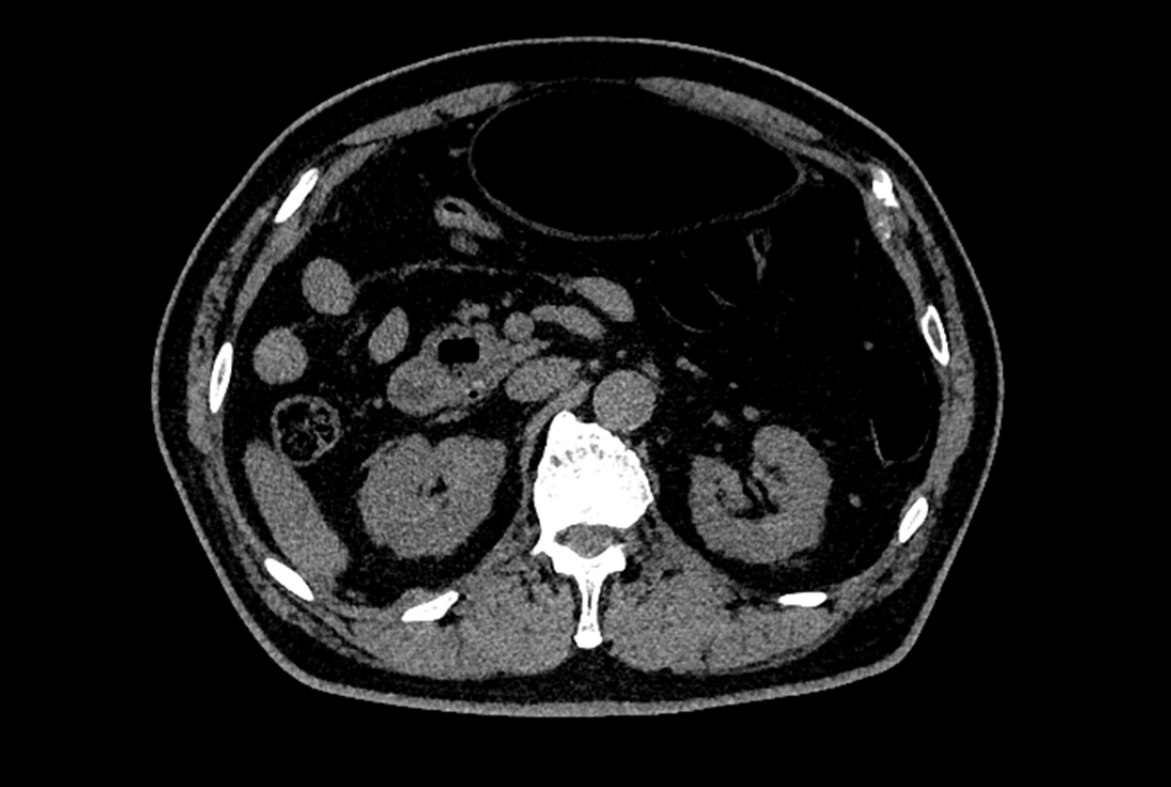
b . 虫垂炎

c . 胃潰瘍

d . 急性胆管炎

e . 腸管穿孔

（２）この患者の腹部単純CT画像を示す。矢印が病変部位である。治療として最も適したものはどれか。２つ選べ。



a . 開腹手術

b . PPI投与

c . 内視鏡的胆管結石除去術

d . 抗菌薬

e . 膿瘍ドレナージ